

資料3-1

# 熊本地震での活動報告

豊田厚生病院救命救急センター

畑田 剛

# 災害医療の展開

- 発災時から24時間には、超急性期の災害医療が必要である。
- 発災24時間から3日目には急性期災害医療が必要である。
- 急性期を過ぎる頃からは亜急性期、慢性期医療への引き継ぎが必要である。

# 関連機関の関わり合い

- 発災直後から行政機関は災害時の計画どおりに動き出す。災害の規模に応じてDMATを要請する。(県知事要請)
- 急性期が過ぎる頃にDMATから医療救護班やJMAT, 医師会, 保健所中心の医療などへシフトする。行政機関がこれをコントロールする。

# DMATとは

- 災害発生直後の急性期に活動する，個別に機動性を有する研修を受けた災害派遣医療チームである。
- 都道府県知事からの要請を受け出動する。
- 活動拠点本部活動，病院支援，広域医療搬送などを行う。

# 熊本地震に対するDMAT派遣要請

- 4月14日 21:26 熊本県で震度7の地震が発生し、九州DMATに待機要請が出されたが、23時過ぎに一部地域を除いて解除された。
- 4月16日 1:25 熊本県熊本地方で震度7の地震(本震)が発生し、近畿地方以西のDMATに派遣要請が出された。

# 熊本地震に対するDMAT派遣要請

- 4月16日 13:50 愛知県DMAT調整本部が立ち上がり、情報収集と後方支援の準備を開始した。
- 4月17日 16:04 中部ブロックの15病院からDMATを現地派遣することが決定された。
- 4月18日、空路で参集拠点の福岡空港に入り、福岡空港からはレンタカーで現地入りした。  
19:30過ぎに到着した。

福岡 ⇒ 熊本へ移動中



# DMAT活動

- 4月19日

熊本赤十字病院 DMAT活動拠点本部での活動の命を受けた。

情報管理，経過記録係，DMAT登録とに分散しての配置となった。



# DMAT活動拠点本部



# DMAT活動拠点本部



# DMAT活動

- 4月20日

同じく、熊本赤十字病院 DMAT活動拠点本部での活動の命を受けた。

情報管理、DMAT登録とに分散しての配置となった。

# DMAT活動

- 4月20日には活動を収束させ、21日以降に活動する熊本県保健センターやJMAT(日本医師会災害医療チーム)への業務引き継ぎのため、各地域の医療ニーズのまとめを行う業務もあった。

# JMATとは

- 日本医師会災害医療チーム(Japan Medical Association Team)は、被災者の生命を守り、被災地の公衆衛生を回復させ、地域医療の再生を支援することを目的としている。
- 災害急性期以降における避難所・救護所等における医療、被災地の病院・診療所への支援などを目的としている。

# 熊本地震の死傷者の特徴

- 家屋などの倒壊による圧死が多くを占めた.
- 余震が多く、被災死者が車内泊をしたために、深部静脈血栓症および肺血栓塞栓症の発症が目立った.
- 死亡者数に比して傷病者数が多かった.

# DMAT活動の課題

- 数多くのDMATをコントロールし、経時的に変化する医療ニーズに合わせた隊の配置を行うには、随時の情報収集が不可欠である。
- 熊本県庁の考える医療支援とのギャップを埋めるために、長時間のミーティングが必要であった。

# まとめ

- 愛知DMATとして、3次派遣隊としDMAT活動拠点本部で活動した.
- 熊本地震の急性期医療ニーズはそれほど甚大ではなく、当初の2日間でほぼ収束していた.
- 2次的な疾病として、深部静脈血栓症による肺血栓塞栓症が多くみられた.
- 行政主導の医療支援チームとの橋渡しには課題が残る.



